



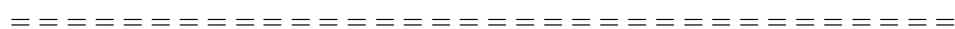
地域日本語支援ニュース こだま 第 295 号

2016.4.28



★—メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます—★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。



■新年度のご挨拶

「ともに生きる」を考え、実現するために

公益社団法人 国際日本語普及協会 (AJALT)
理事長 関口 明子

皆様

いつも地域日本語支援ニュース『こだま』をお読みいただきましてありがとうございます。今号が295号ですので、夏には300号を迎えることになります。少しずつ読者も増え、4月7日現在2,016名になっております。

昨年度は、大きなテーマ「ともに生きる」のもと、外国の方の来日時の驚き、戸惑い、子育て体験を通しての日本の良さ、母国の良さ等々、母国と比してのさまざまな想いを吐露していただきました。

今年度の方針を考えるにあたって、「ともに生きる」は今後も『こだま』の永遠のテーマとして掲げていくことにいたしました。

さて、世界情勢を見ますと、テロの脅威は広がり、ヨーロッパへの難民の流入は増加の一途をたどっております。日本の対応にも多くの目が注がれているのが現状です。AJALTの日本語教師は、1980年からインドシナ難民への日本語教育を難民事業本部より依頼され、開始して以来、現在条約難民、第三国定住難民への日本語教育を継続して行っております。すでに35年を経過しました。世界的に大きな社会問題になっている現在、難民への日本語教育を担って

きた知見と経験をもとに、覚悟を持ってしっかり活動をして行きたいと思っております。

現在定住者としての難民に対して、日本語支援をしている多くの方々が『こだま』の読者でいらっしゃると思いますので、新年度に当たって、敢えて書かせていただきました。難民を含む地域の生活者への日本語教育の発展は、国や自治体、民間組織（AJALT もその一つですが）、企業、個人等がどう協力し合い、連携していけるかにかかっていると考えます。

今年度も外国の方々の想いや声を掲載していくのはもちろんですが、大切なのは私たちが周囲の日本の人々への意識改革を行っていくことだと思いますので、多くの日本の人々の想いや皆様の声をお聞かせください。

今年度も読者の皆様とともに、「ともに生きる」を考え、一人でも多くの方が日本に来てよかった、日本で生活してよかったと思える社会の実現のために、少しずつでもできることを積み上げていきましょう！
